

平成29年度 福岡県立小郡特別支援学校 特別支援教育研修会 テーマ【発達段階における支援の在り方】

アンケート集計結果

平成29年8月3日に行いました、特別支援教育研修会には、お忙しい中沢山の方にご参加頂き、誠にありがとうございました。

午前の部では、聖マリア病院 臨床心理士の中島康浩先生に「病院心理から見た発達障がい」と題して講演をしていただきました。

午後の部は5つの分科会に分かれて、協議の柱に沿ってテーマに関連した情報提供の後、協議を行いました。午前の部、午後の部とも、参加された先生方や施設の職員の方から頂いたアンケートの中から一部を抜粋してご紹介いたします。

●午前の部

○講演会「病院心理から見た発達障がい」 (学校関係81名 施設職員13名 無記入1名)

①参考にならなかった(0名)

②あまり参考にならなかった(1名)

③参考になった(36名)

- ・“共感する”事の難しさ大事さを考えさせられました。その子のもつ困り感がどこからきたものか先天性のものなのか、それともその後の育ちの環境からきたものなのかを知り、どう対応していけるか、家庭との連携等々 その子にとってまたその子がどうしていきたいのかを寄り添い、健やかな育ちの手助けができるようにと思いました。
- ・子どもアプローチの基本的考え、修正の前に目を向けるべきこと、すべきことが分かりました。発達障がいと決めつけず、その子の歴史を知ることから始めることの大切さを改めて考えました。
- ・自分の担当している生徒を想像しながら講演を聞きました。なぜ指導が入らないのだろうか悩んでいたもので、中島先生の講話の中から指導のヒントを頂いたように思いました。
- ・子どもの生育も今の状況に大きく関わっていることが分かりました。3年間という限られた時間の中で、子どもたちにどれだけ社会に出たときに適応できる力をつけることができるのか考えながら、信頼関係を築いてふれあっていきたいと思います。
- ・Maltreatmentに関する講座を受けたのは初めてでした。子どもたちの背景をよく知った上で指導・支援していくことの大切さに改めて気付かされました。

④大変参考になった(59名)

- ・子どもたちと向き合うことの大切さを改めて考えさせられました。その子どもの歴史をしっかりと見て、イメージしたうえで(アセスメントし)安心感、信頼関係を築いて具体的な支援をしていくようなことを通して向きあえるようにしていきたいと思いました。
- ・私自身、本年度から初めて特別支援学級(自閉・情緒)の学級を担当し、戸惑うことが多く、とても参考になりました。交流学級の担任をしていたものの、こんなにも私自身の学びがたりなかったと痛感する毎日でした。先生の専門のお話を聞き、子どもたちとの積み上げと幸せを願い保護者と共に努力していきたいと思います。
- ・子どもたちと接するなかで、大事にしなくてはならない3つのこと(安心できる環境、信頼関係、保

護されているという感覚)を学ぶことができました。子どもたちの行動面の修正ばかりに目をやらずに生育歴や背景にきちんと寄り添い共感できるようになりたいです。

- ・平成19年度からの進歩の項目が大変興味深かったです。何でもかんでも「発達障がいではなく、支援や教育のために問題の根本を見極める必要を強く感じました。特に反応性アタッチメント障がいについて深く知ることができ、複数名の生徒の顔を思いながら拝聴しました。
- ・発達障がいの境界部分(類似)についての説明が分かりやすかったです。私は施設で色々な利用者の方と接していますが、支援する側の態度、表情、声掛けなど重要であると改めて感じました。

●午後の部

○第1分科会「人との関わり合いについて」

①参考にならなかった(0名)

②あまり参考にならなかった(1名)

- ・話題提供については、スライド資料がテーブルに1~2枚あればありがたいです。年齢的に提示されたものだけでは字が見えないです。

③参考になった(12名)

- ・様々な立場、障がい種の先生と情報交換ができ新しい発見や学びがありました。
- ・教育現場を少し理解できました。
- ・いろいろな実態があり、対策や意見交換できて有意義な会でした。

④とても参考になった(12名)

- ・いろいろな所属の先生のお話を聞くことができ、自分自身の勉強にもなりました。
- ・子どもの気持ちを理解しどう見てとるかの対応や支援がよく分かりました。
- ・一つの事例に対して、沢山の意見をきくことができとても勉強になりました。
- ・どこの学校でも情緒と知的の複合型児童が多いことや、似ている事例の児童への対応をどうするのか各先生に聞くことができ参考にしたいと思いました。
- ・いろいろな立場で具体的な指導支援等を出し合うことができ、とても参考になりました。

○第2分科会「親子関係について」

①参考にならなかった(0名)

②あまり参考にならなかった(0名)

③参考になった(5名)

- ・様々な事例を聞くことができ今後の参考になった。親子関係は教育に切実に関わる重要な項目のため分科会の協議に適していると思いました。

④とても参考になった(13名)

- ・各関係機関の先生が、子どもの健やかな育ちのために向き合い悩み、日々取り組まれている事がよくわかりました。心強く思いました。現場に戻り、頑張る源にしたいと思いました。
- ・保~小・中・高ともに子ども保護者の理解、子どもの変容を通して保護者と子どもの関係をよりよくしていきたいと思いました。悩みはどこも似ていました。小学校でできることをやっていきます。
- ・各校・園の取組を知ることができたてよかったです。特に特別支援学校の高等部の卒業に向けての就労の取組は初めて学びました。

○第3分科会「身近な人との信頼関係について」

①参考にならなかった（0名）

②あまり参考にならなかった（0名）

③参考になった（4名）

- ・今後、大人になって生活していくうえで課題のある子どもたちにどうアプローチしていけばいいか、ヒントを見つけたような気がしました。

④とても参考になった（5名）

- ・いろいろな学校種の方と話しができて、たくさんのヒントをいただきました。

○第4分科会「他者との関わりについて」

①参考にならなかった（0名）

②あまり参考にならなかった（0名）

③参考になった（5名）

- ・さまざまな校種職種の方とお話することができ、いろいろな意見を聞くことができ参考になりました。
- ・特別支援学校、小学校、高校の先生の施設、作業所の職員の方と交流でき協議する中で、アドバイスやヒントを頂き元気になりました。社会で役に立てる人を育てるためにまた少しずつ頑張ります。

④とても参考になった（11名）

- ・いろんな立場からのご意見を聞いて、とても参考になりました。最後に司会の先生がまとめて下さったお話がすごく心に響きました。
- ・自分が特別支援についてまだ未熟なため、最前の現場で取り組まれている先生方のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・支援・指導法を具体的に様々な視点での考え方を聞いて良かったです。

①～④以外（1名）

- ・学校の先生達との情報など話す時間ができました。それぞれの現場での関わりを聞き、勉強になりました。

○第5分科会「自己肯定感について」

①参考にならなかった（0名）

②あまり参考にならなかった（0名）

③参考になった（4名）

- ・施設や高校の先生のお話を聞いてよかったです。ほめる、自信をつけさせる、大切だなとあらためて思いました。

④とても参考になった（7名）

- ・話題提供者のエピソードが高等部の話だったので実際的な話として聞くことができました。色々な立場の方から現場の声や悩みなどを聞くことができ、知見も深めることができました。
- ・様々な学校の施設の現状実践を知ることができました。なにより、どういった態度で臨むかという意識が大事だと思いました。また、他校種の先生や施設の方と話し合える機会があるとたすかります。

①～④以外（1名）

- ・本人が興味関心あることをもっとさせられるようにもっていきたい。今自分ができていることが見えてきたかなと思えました。